

平成二十九年度入学試験問題（前期日程）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 ヨーロッパ文化専攻

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一五〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

問
題

次は多和田葉子の著作『エクソフォニー――母語の外へ出る旅』からの抜粋です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

非公開

非公開

(多和田葉子、『エクソフォニー ―母語の外へ出る旅』、二〇〇三年、一〇～一三ページ、抜粋)

問 右の文章の中で著者は、日本では(傍線部①)「ヨーロッパ文明を消費者の文明としてのみ捉え自分たちをその一部であるという考え方が一般化」していると述べ、また(傍線部②)「日本の劣等感を取り上げるのは時代錯誤で、今の人はそのようなことは問題にしていない」という意見に疑問を呈している。著者のこれらの見解に対して、本文全体の内容も踏まえたいうえで、あなたの考えを一〇〇〇字以上、一二〇〇字以内でまとめなさい。

平成二十九年入学試験問題（前期日程）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 ヨーロッパ文化専攻

出題の意図

この小論文の出題意図は、現代日本におけるヨーロッパ文化・ヨーロッパ言語の捉え方を批判的に論じる文章を読ませ、これからヨーロッパの言語文化を学ぼうとする立場として、この内容に賛同するにせよ反対するにせよ、いかに筆者の意見を消化したうえで自身の見解を發展させ、説得力のある論を展開できるかをみることである。本専攻のアドミッシヨン・ポリシーで言及しているヨーロッパ言語文化への強い関心と、多様な見解や価値観を学ぼうとする姿勢をみるとともに、独自の論を展開する論理的思考力と表現力を測るための出題である。